

<2016年3月期>
決算説明会資料/成長戦略説明資料

データセクション株式会社
2016年5月2日
証券コード：3905

1. 経営方針

2. 16期 決算トピックス

3. 16期 決算概要

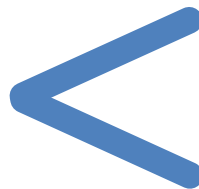
4. 17期 業績予想

5. 17期 事業戦略

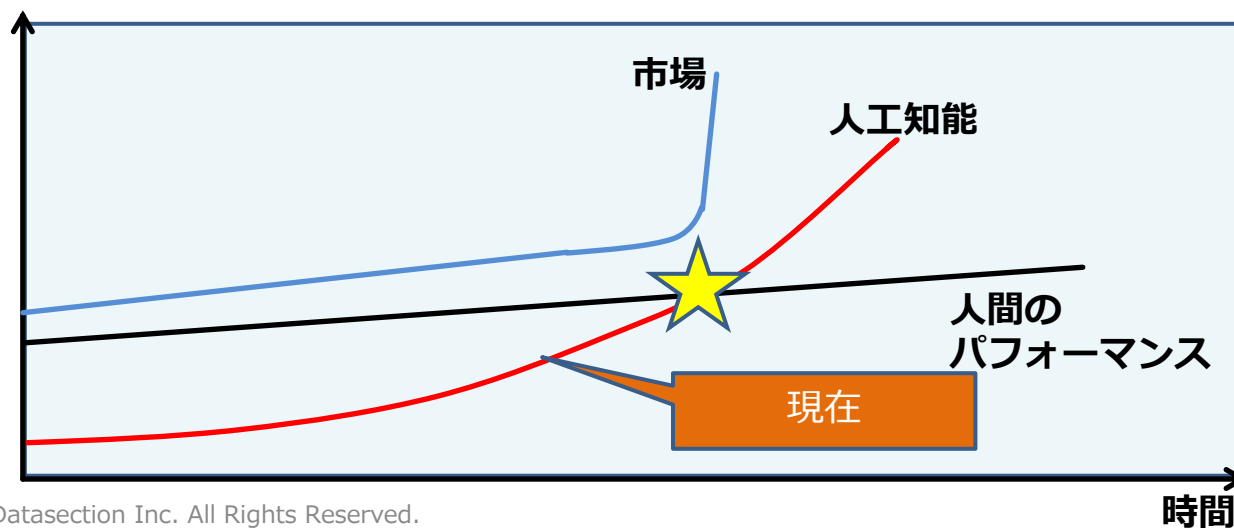
1. 経営方針

- ・世の中で様々なAI分野で既にブレークスルーが起きている
例：（Alpha Go・自動運転）
- ・我々の事業でもブレークスルーは近いと考えている 例：ビッグデータファンド
- ・「AIが人力を超える瞬間」＝「AIビジネスブレイク」のタイミングで市場席卷へ

経営リソースコントロール
により着実に
売上利益を伸ばしていくこと
も大切



AI領域に積極展開（投資）
し、
AIエンジンが人を超えるブ
レークスルー目指す



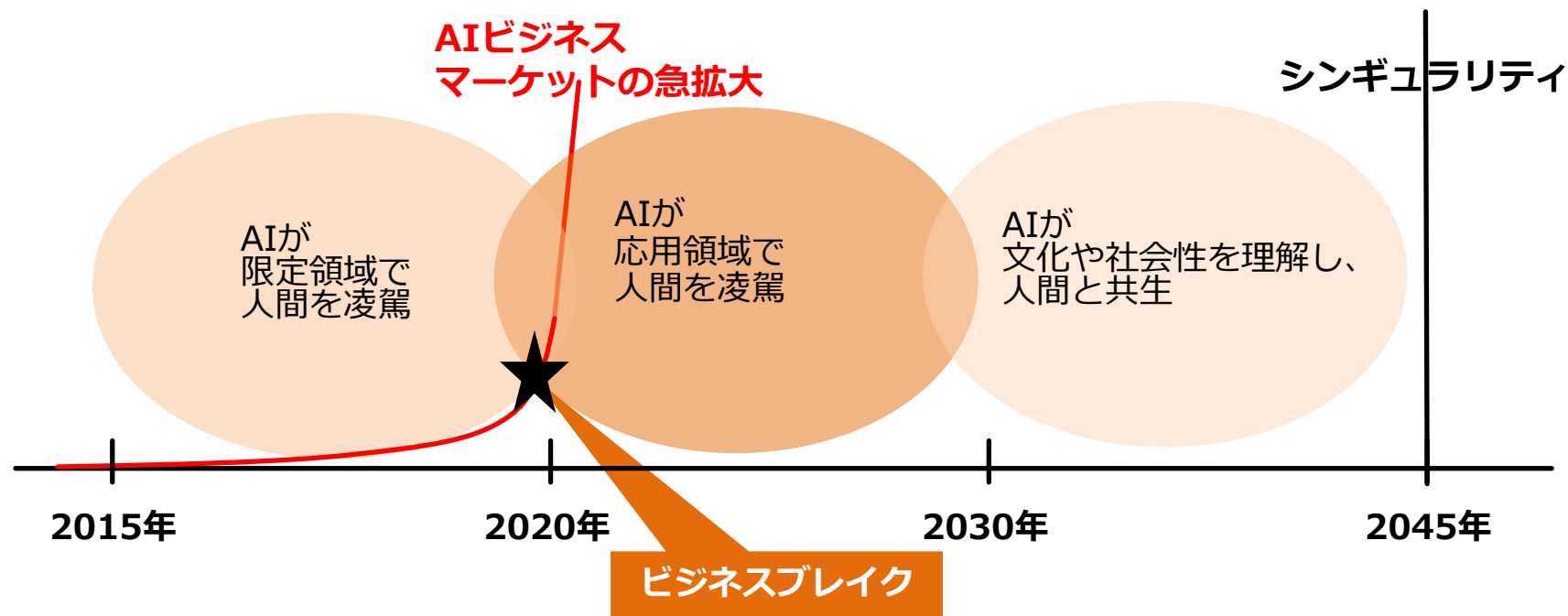
1. 経営方針

2045年 コンピューター・人工知能の能力が、**全人類を合わせた位の知能をもつようになる時期**を2045年と予測。（レイ・カーツワイル：アメリカの発明家・未来学者で人工知能研究の世界的権威）

「**（技術的）特異点、シンギュラリティ**」(Technological Singularity)

⇒多くの技術者が懐疑的ではある。

しかし、AIが限定領域で人間を凌駕していくのは、近未来であると多くの技術者は考えている。我々は、これら限定領域でのAI投資を積極展開していく。



1. 経営方針

16期 AI技術に先行投資（画像解析領域から着手）

- ・ウェブフィルタリング、マーケティングリサーチ分野ですでに実用化&ビジネス化
- ・先端AI技術実践の場を求めて、AI技術者/学生からの求職が増加
(データ × AI →学生にも人気)

→ AIビジネス市場における先行優位ポジションを獲得



17期 AI画像解析ビジネス拡大

→ AI画像関連売上。昨期の5倍～10倍程度を見込む

既存ビジネスを通してAI技術を強化 → 新規事業を創出

- ・ AI技術の活用領域をさらに拡大
 - AI応用技術の強化により、ビジネス活用をさらに促進

→ AI技術を積極的にビジネスへ活用し、全事業領域の競争力向上を図り
新たなブレイクスルーが行える応用分野に展開

1. 経営方針

2. 16期 決算トピックス

3. 16期 決算概要

4. 17期 業績予想

5. 17期 事業戦略

2. 16期 決算トピックス

① **AI領域の強化**に向けた先行投資、およびビジネス化実現

- ・積極的な先行投資（採用）の実施（16期は中途、新卒合わせて14名採用）
- ・他社に先行してビジネス化を実現している（Webフィルタリング、利用シーン発掘）
- ・エログロの画像数、分別技術は日本一と思料

② **ビッグデータファンド**の提供開始

- ・日本初のソーシャルメディア分析を株価予測に利用したファンド
- ・2016年3月は東証株価指数（TOPIX）を上回るパフォーマンス実績

③ **訪日インバウンド**リサーチコンサルティングサービスの提供

- ・訪日インバウンドリサーチコンサルティングサービスにて、独占的ポジションを獲得
- ・既に国・自治体との取引実績多数

④ **米Sprinklr社**とのテクニカルパートナーシップ実現

- ・センチメントエンジンの提供開始。Sprinklr導入企業の増加に応じた売上増を目指す
- ・同様のビジネスモデルによる、他社への展開も動き出している

1. 経営方針

2. 16期 決算トピックス

3. 16期 決算概要

4. 17期 業績予想

5. 17期 事業戦略

3. 16期 決算概要 (連結損益計算書)

- ▶ 技術投資、人員増強など積極的な投資活動を行う。その結果、営業費用は前年比41.6%増加。費用は嵩んだが利益も確保。結果、増収減益。

単位：千円

	第13期 (単体)	第14期 (連結)	第15期 (連結)	第16期 (連結)	増減	前年比
売上高	244,456	317,177	376,416	439,841	63,425	16.8%
営業費用	190,494	260,031	290,830	411,300	120,469	41.4%
営業利益	53,962	57,145	85,585	28,541	△57,044	△66.7%
経常利益	54,694	60,275	85,910	36,527	△49,383	△57.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	40,783	45,198	63,093	26,187	△36,906	△58.5%

3. 16期 決算概要 (連結貸借対照表)

- ▶ 流動資産の減少は、現金預金84百万円減少および売上増加に伴う売掛金の増加48百万円が主要因である
- ▶ 固定資産の増加は、ソフトウェア37百万円の増加が主要因である。

単位：千円

		第15期 (連結)	第16期 (連結)	増減額	前年比
資産	流動資産	891,072	852,113	△38,959	△4.4%
	固定資産	145,633	214,179	68,546	47.1%
	資産合計	1,036,705	1,066,293	29,587	2.9%
負債純資産	負債合計	71,562	54,318	△17,244	△24.0%
	純資産	965,143	1,011,974	46,830	4.9%
	負債純資産合計	1,036,705	1,066,293	29,587	2.9%

3. 16期 決算概要 (連結キャッシュ・フロー計算書)

- ▶ 各キャッシュ・フローの増減と内容は以下の通りとなる

単位：千円

	第15期 (連結)	第16期 (連結)	ポイント
営業活動による キャッシュ・フロー	95,704	△1,193	
投資活動による キャッシュ・フロー	△86,311	△102,109	無形固定資産の取得
財務活動による キャッシュ・フロー	604,714	19,616	
現金及び 現金同等物の増減額	614,281	△84,551	
現金及び 現金同等物の期末残高	802,061	717,509	

1. 経営方針

2. 16期 決算トピックス

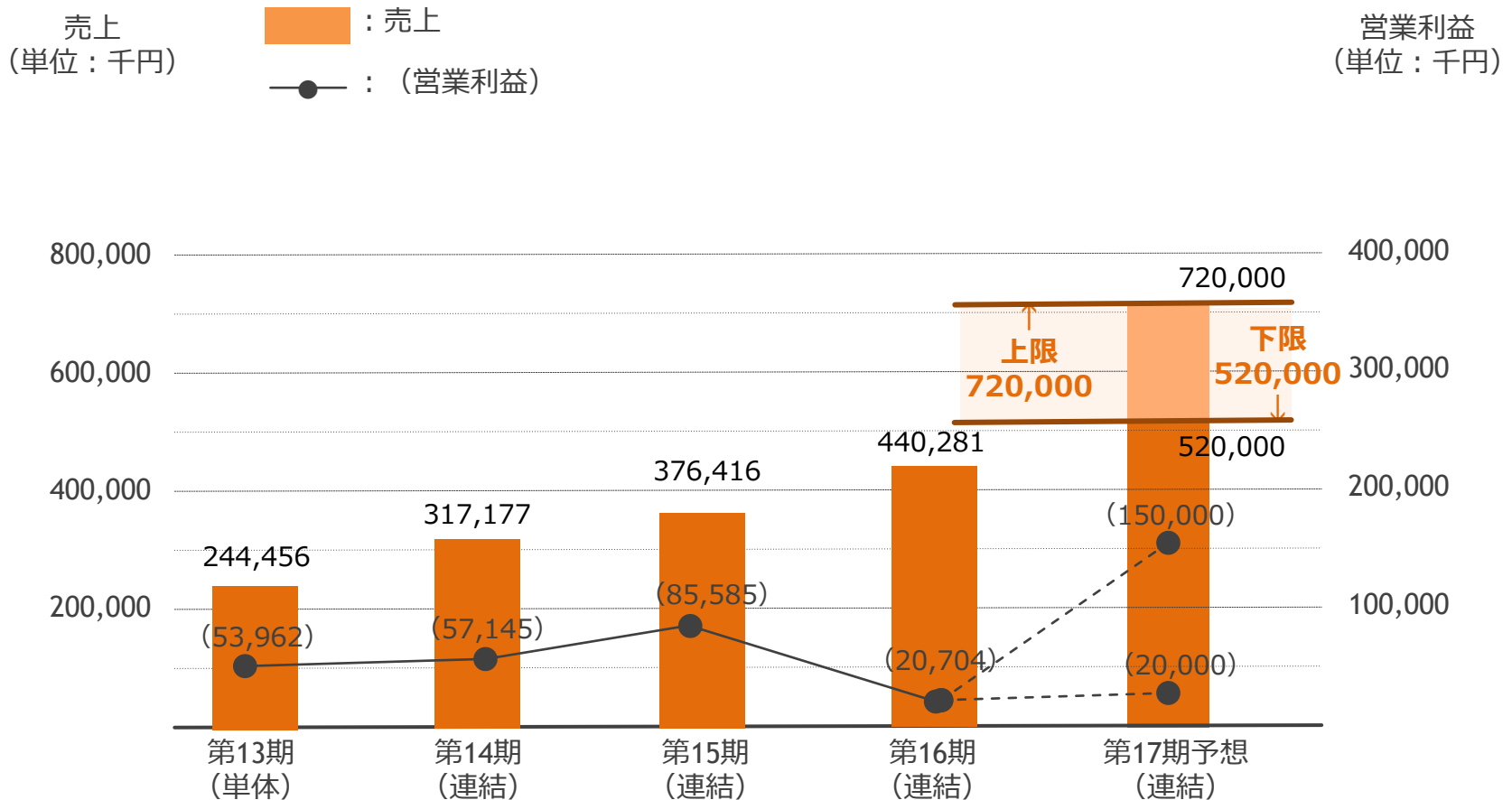
3. 16期 決算概要

4. 17期 業績予想

5. 17期 事業戦略

4. 17期 業績予想 (業績推移)

- ▶ 第17期の業績予想は幅（レンジ）を持たせており変動要素がある
(売上高：520百万円～720百万円 営業利益：20百万円～150百万円)



1. 経営方針

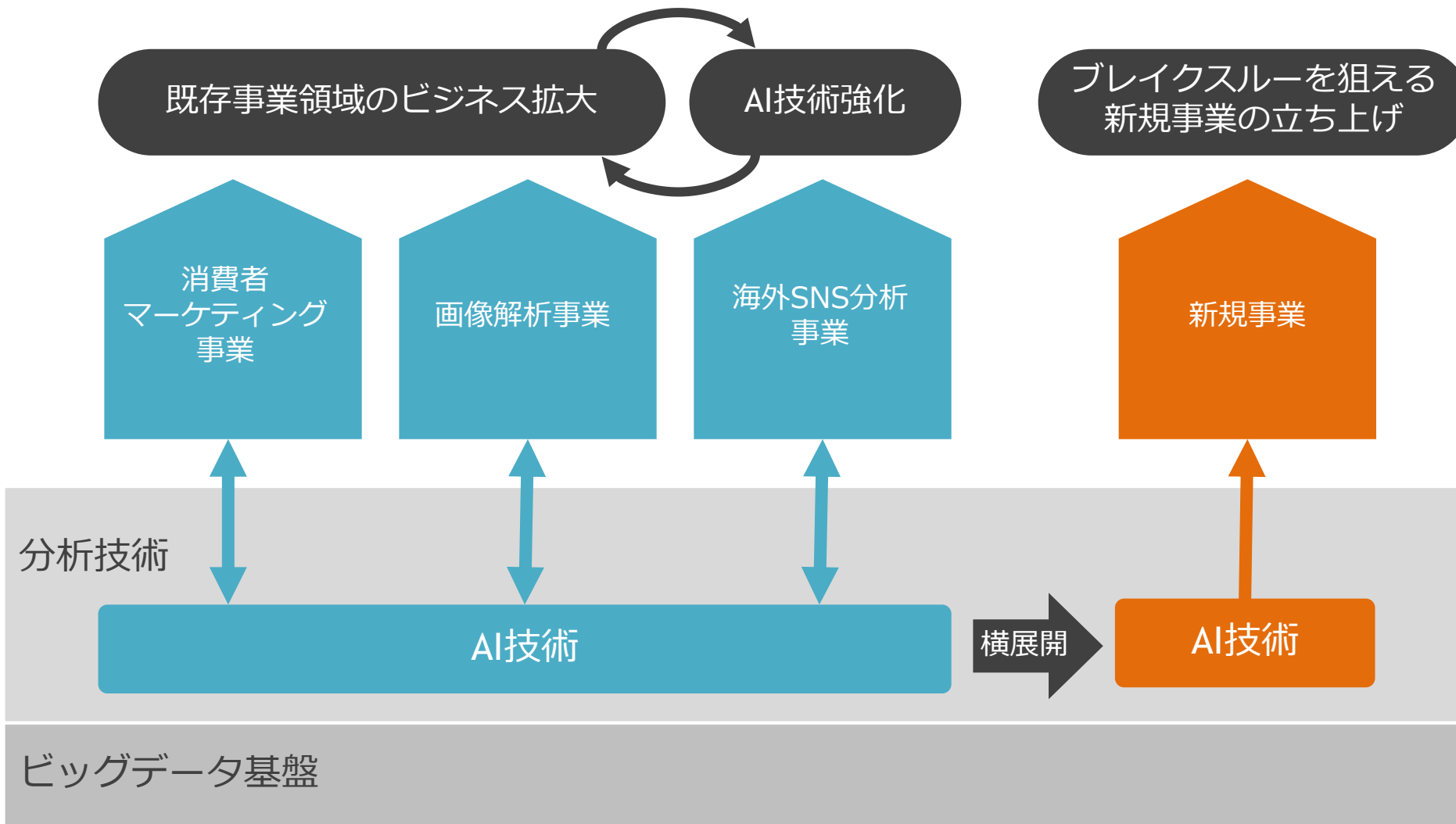
2. 16期 決算トピックス

3. 16期 決算概要

4. 17期 業績予想

5. 17期 事業戦略

既存ビジネスを通してAI技術を強化 → 新規事業を創出



AI活用を軸に、さらなる事業拡大

強み

- ・弊社ストックビジネスの中心となる事業（基幹ビジネス）。収益の柱
- ・ソーシャルメディア分析レポートは、弊社がほぼ独占的に市場を獲得



展開戦略

- 1. AI技術の活用より、分析の高度化/提供価値向上を図る**
- 2. リサーチ/分析にとどまらず、ビジネス活用まで踏み込んで展開**
 - プロモーション、共創型コミュニティ運営、共同商品開発など
 - ビジネス活用まで踏み込んだ展開を、独立組織であるWeaversが担う
- 3. 分析システム基盤の整備/共通化により、高利益率体質にシフト**

大手事業者との共同研究開発による収益拡大

強み

- ・最新のAI（Deep Learning）技術を活用した、画像解析技術



展開戦略

1. AI活用モデルケースとして、拡販を強化

拡販により「AI活用ビジネスといえば、データセクション」イメージを世の中に浸透させる

2. 多くの大手事業者との取り組みによる収益化へ

16期比5倍～10倍程度の売上を見込む

旺盛な需要を背景に、積極投資

強み

- ・他社の追随を許さない、圧倒的な先行優位性
- ・海外事業者との強力な協業体制



展開戦略

1. 先行優位性を強みに、17期はさらなる受注拡大へ

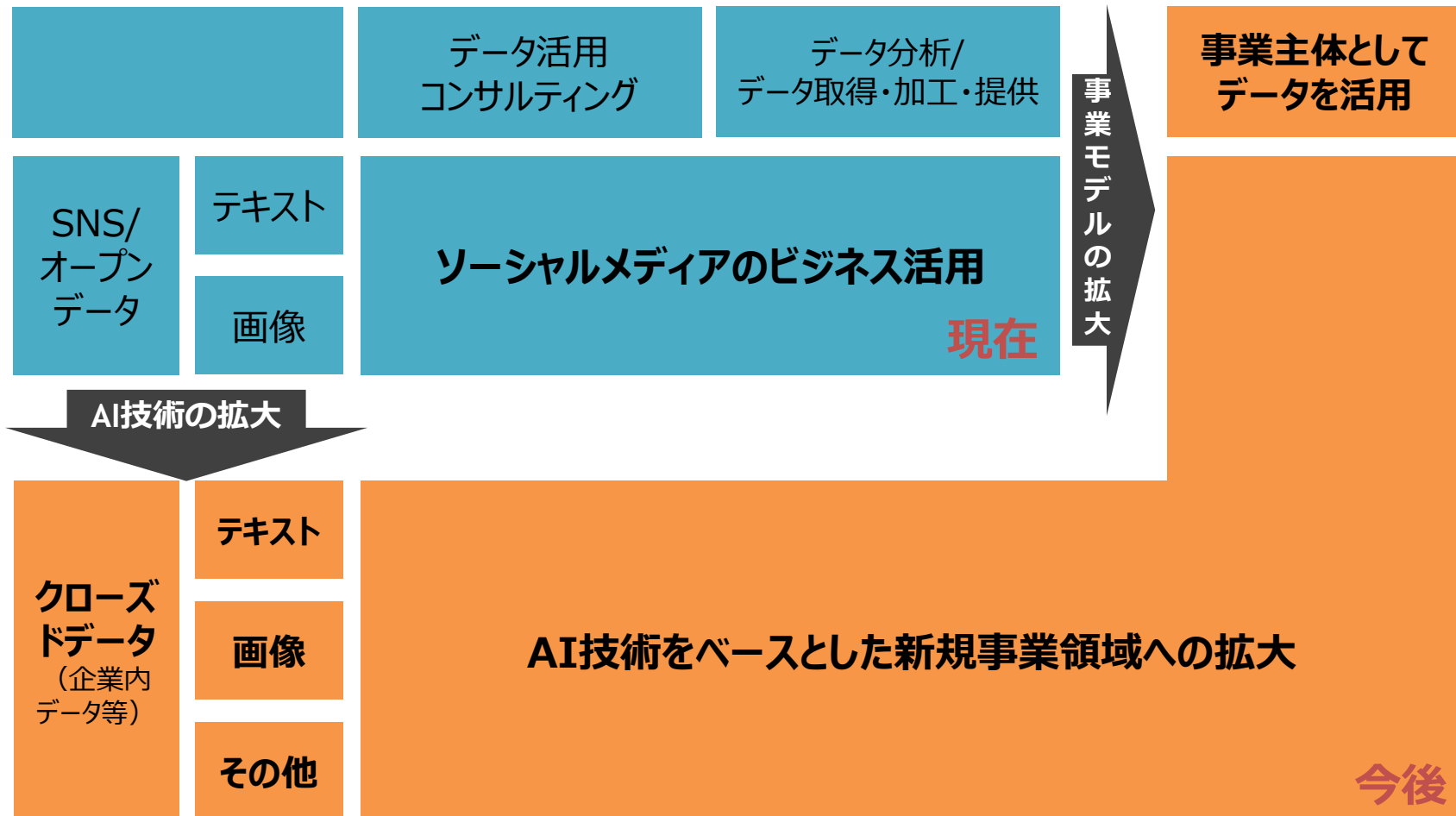
- ・ 16期比2倍～3倍程度の売上を見込む

2. 需要拡大を見越した、迅速なレポーティングが可能な体制を整備

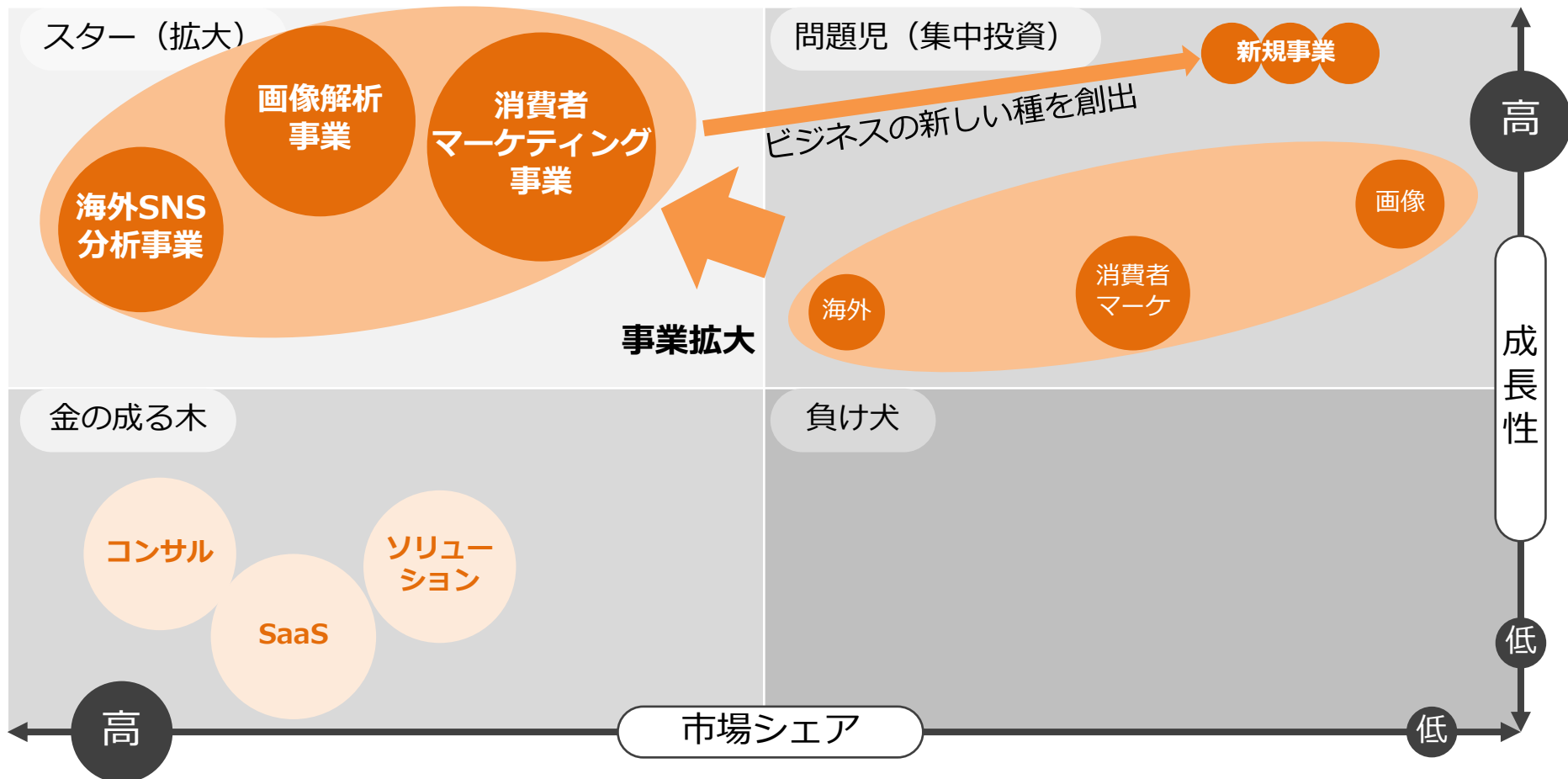
3. 東南アジア地域への積極投資

- ・ IMJ Investment Partners Pte.Ltd.を通じたファンドへの出資

AI技術をベースとした新規事業領域への拡大



今後の新規事業展開イメージ





DATASECTION

- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。